

健康に関する情報の第2回目は「**がん検診**」です。

がん対策推進基本計画において国は受診率を50%以上とすることを目標としています。曾於市のがん検診受診状況は下記のようになっていますが、50%以上という目標には程遠い数字になっています。検診の方法として市の集団健診や個別健診、人間ドック、職場健診等を利用して**からだのチェック**をしましょう！



【集団健診の検査方法】

胃がん検診～問診・胃部X線検査

肺がん検診～問診・レントゲン検査又は肺CT検査（平成23年度より開始）

大腸がん検診～問診・便潜血反応検査（2日法）

子宮がん検診～問診・子宮頸部細胞診

乳がん検診～問診・視触診・マンモグラフィー（乳房のレントゲン）

平成22年度がん検診受診状況とがん発見数は以下のようになっています。

	対象者	対象者数	受診者数	受診率	要精密者数	精密受診者数	精密受診率	がん発見数
胃がん検診	40歳以上	14,689	3,513	23.9	458	381	83.2	3
肺がん検診	40歳以上	16,780	5,051	30.1	22	17	77.3	2
大腸がん検診	40歳以上	17,954	4,644	25.9	350	207	59.1	6
子宮がん検診	20歳以上	11,766	2,366	20.1	13	8	61.5	1
乳がん検診	40歳以上	9,507	2,213	23.3	119	109	91.6	1

がん検診全般で受診率は20～30%前後と低く、**特に40～50歳代の受診率が低い傾向**が見られます。

早期発見の機会として実施している検診で「精密検査が必要」と言われて精密検査を受けている人の割合（上記の表の精密受診率）が60～90%と低いことです。疾病の早期発見と早期治療で救命の機会を得ても精密検査を受けなかったために手遅れになることもあります。

早期発見・早期治療につながるよう早期受診に努めましょう。

精密検査を受けたら…治療が必要か、経過観察が必要か、今後も集団でがん検診を受けてからだのチェックをしていくのか、担当医とよく相談してください。必要に応じて医療機関で定期的に受診する方法もあります。

がん検診のメリット



早期がんで発見

- ① 予後が良い（5年生存率が高い）
- ② 医療費節減効果がある



上記のがん検診の他に曾於市では腹部超音波検診・前立腺検診・節目の肝炎（B型とC型）検診を実施しています。

次回「**あなたの健康！だいじょうぶ？③**」は、国保情報をお知らせします。